

隠岐自然館

マクロからミクロへ リュウグウノツカイから隠岐の深海を探る

開催期間：2024年11月1日（金）～2025年3月31日（月）



企画展示 開催状況写真①



企画展示 開催状況写真②



関連事業 開催状況写真①



関連事業 開催状況写真②

【企画展の内容・目的】

- 深海生物について学ぶことを通して、隠岐諸島の成り立ちや深海地形の構造を理解してもらう。
- 島根大学隠岐臨海実験所の教授から深海について学べる解説日を設けて、展示物を見てわからないことなどを直接質問できる日を作った。
- 隠岐ジオパークでは深海についてのテーマを取り上げることがなかったため深海生物の剥製をきっかけに隠岐諸島の深海地形に目を向けてもらうことも目的とした。島根大学隠岐臨海実験所との連携関係の構築。

活動の様子

実施活動名① 深海魚と隠岐の深海について知る

【開催日時】 2024年12月14日（土）9:00～9:30

【開催場所】 隠岐臨海実験所

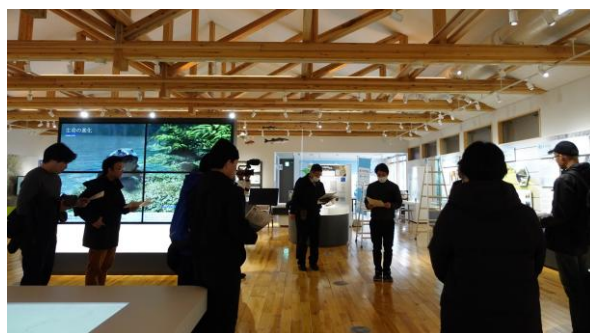
【参加者数】 7人

【活動内容・目的】

- 隠岐で捕れたリュウグウノツカイの剥製標本を見ながらリュウグウノツカイの生態を学ぶ
- 隠岐の深海地形を説明したタペストリーを見ながら隠岐の浅瀬でも時々見られる深海生物のヌタウナギやホオズキチョウチンなどについて学び隠岐地域の特殊性を知る



開催場所：隠岐自然館



事業について説明



活動状況の写真（取り付け式）



活動状況の写真（深海生物の説明）

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。

隠岐の島町内で捕れたリュウグウノツカイの剥製標本を間近に見ながら、どのような生物なのかその生態の説明を行い、なぜ隠岐では毎年のようにリュウグウノツカイが浅瀬で見られるのかということについても理解してもらった。それには隠岐の海底地形（成り立ち）が大きく関わっているということに結び付けて考えてもらうことができた。

【来館者の声】

- 回答内容A リュウグウノツカイの生態で自切することが印象に残った
- 回答内容B 隠岐諸島近海は水深や地形の関係で深海生物が比較的すみやすい環境にあることがわかった
- 回答内容C （リュウグウノツカイのことを知ったことで）解明されていないことが多い深海生物の生態的な雑学を知りたい

実施活動名② 隠岐で見られる深海生物の生態について学ぶ

【開催日時】 2024年12月14日（土）9:45～10:30

【開催場所】 隠岐臨海実験所

【参加者数】 7人

【活動内容・目的】

- 隠岐で見られる深海生物の写真や動画を見ながらどんな種類の深海生物が隠岐近海にいるのか学ぶ
- 隠岐で比較的好く見られる深海生物又タウナギの生きている様子を実際に見ながら体の構造や特徴を専門家から聞いて理解を深める



開催場所：隠岐臨海実験所の外観



実習室で講師の吉田教授の説明を聞く



浅瀬に漂う深海生物を探す



又タウナギ

実際に海の生きものを研究している研究所に行き、研究者である講師の吉田教授から普段ここでどのような活動をしているのかなどの説明を聞き、浅瀬に漂う深海生物の捕獲を試みたり、隠岐の深海生物について体の構造や生態について学んだ。

【来館者の声】

- 回答内容A 又タウナギの又タと呼ばれる粘液の量が意外と多く、生態を体感して知ることができた
- 回答内容B (深海の深さを考えたことがなかったが) 深さ200mより深いところが深海ということがわかった
- 回答内容C 隠岐に棲んでいても知らない生物がたくさんいることに感動した

実施活動名③ 珪藻土から隠岐諸島の成り立ちを学ぶ

【開催日時】 2024年12月14日（土） 10:50 ~ 12:30

【開催場所】 都万・塩の浜

【参加者数】 5人

【活動内容・目的】

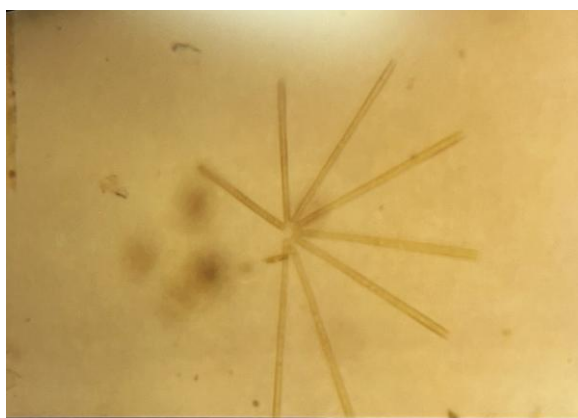
- 隠岐諸島が深海にあった時代を地表面で知ることができる珪藻土について学ぶ
- 珪藻土を形成している珪藻プランクトンを実際に観察してみる



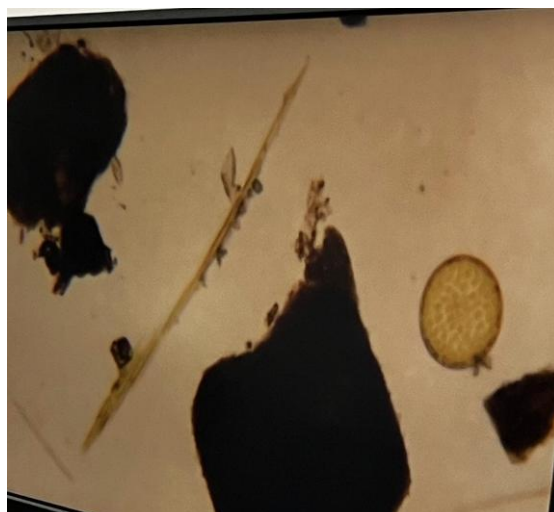
開催場所：都万の珪藻土層



珪藻土の斜面を見学する



珪藻『ニチリンケイソウ』



珪藻『クサリケイソウ』

隠岐諸島が海の底にあった時代を物語る都万の珪藻土層に行き、珪藻土というものがどのようなものなのか知ってもらい、隠岐の成り立ちと深海の関わりについて学んでもらった。また顕微鏡で珪藻土を構成する珪藻プランクトンを見てもらい、どのようにしてこれが地層となっていたのか知識を深めてもらった。

【参加者の声】

- 地理的要因から隠岐の生物多様性を知ることができた
- 生物だけでなく地学的側面・文化的側面から隠岐について知ることができた
- 疑問に思っていたことが直接聞けたので問題がクリアになった。

実施活動名④ 隠岐の海底観察会

【開催日時】 2025年3月30日（日） 9：30 ～ 12：30

【開催場所】 西郷湾、島根大学隠岐臨海実験所

【参加者数】 12人

【活動内容・目的】

- 深海をイメージしてもらうため、深海生物調査を疑似体験してもらい、隠岐の海底にいる生物の存在を認識してもらう。
- 肉眼では見えないような海底にいる微生物の役割を学ぶ。



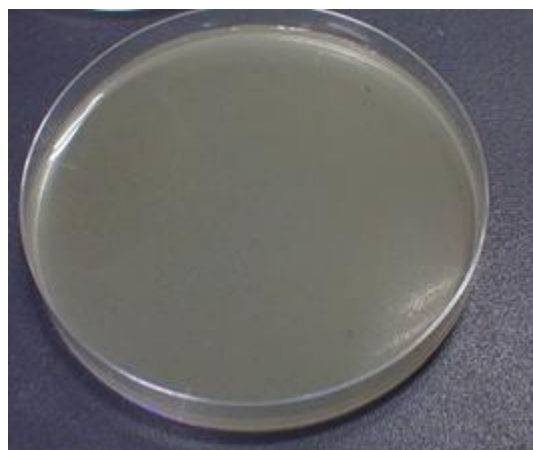
会場：西郷湾



これからする作業の説明



土砂を濾す作業を体験



濾過作業をした水（この中に生きものがある）

2022年、隠岐の深海で海底の土砂に棲む未知の動物動物が発見され、2024年にオキトゲカワという名前で新種発表された。このイベントではそのときの調査と同じような作業を参加者に体験してもらった。海底の土砂にもいろいろな生物がいて、どのような役割をしているのか知ることを目的に実施した。



隠岐臨海実験所に移動



顕微鏡で小さな海底の生物を観察



小さな生物を顕微鏡で観察



小さな生物を顕微鏡で観察

肉眼ではよく姿がとらえられないような小さな生物を顕微鏡で観察し、その構造や生態を学んだ。参加者は保育園児から高齢者まで集まり、世代がばらばらでありながら、同じ反応を得られたことは良かった。例えば「海底の土壌生物が泥の中の植物プランクトンを食べることで生態系が循環しているという海洋環境の作用などを初めて知った」など、新たな知見を深めてもらうことができた。

【来館者の声】

- 回答内容A メイオバントスには甲殻類が多いことや体色が赤い生物は酸素が少ない場所に生息しているということが印象に残った
- 回答内容B 目に見えないような小さな生き物が様々な環境で生きていることを初めて知った
- 回答内容C 海底の小さな生き物の採集方法で紙に付着させるという方法を学べた

【事業全体のまとめ】

隠岐諸島と深海の関わりについて、今回この海の学びミュージアムサポート事業で作成したリュウグウノツカイの剥製や深海をテーマにしたタペストリー、講師の解説によって来館者に詳しく知ってもらうことができた。リュウグウノツカイに関してはいつ誰でも見られるものではなく貴重なことから、今後も館内で常設展示することになっている。

また、深海生物をきっかけに隠岐の深海地形の構造や、隠岐諸島の成り立ちについてもふれることができた。

主な連携・協力先について

連携・協力先名称	連携・協力の内容
1. 島根大学生物資源科学部附属生物資源教育研究センター隠岐臨海実験所	イベント講師
2.	
3.	
4.	
5.	

主な広報結果について

掲載媒体名	見出し、掲載日
1. 隠岐の島町役場お知らせ便	お知らせ便第411号 3月11日発行
2. 山陰中央新報	リュウグウノツカイはく製に 12月15日掲載
3.	
4.	
5.	

以上